

公的病院および社会福祉法人の財務、非財務の特徴に関する実証的研究

社会科学研究所 木下 隆志

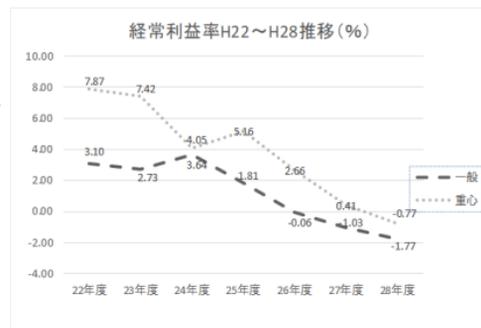


キーワード

政策医療、公益的取組み、経営組織のガバナンス

研究概要

公的病院や社会福祉法人が担う社会的役割は、民間では委ねることができない分野の医療や福祉を提供することである。そのため、高度医療や政策医療を担う公的病院には補助金が拠出され、社会福祉法人の法人税は免除されている。しかし昨今の多様な供給主体の出現は、これまで固有の役割であった機能を揺るがすようになった。例えば、重症心身障害児者の病床は民間で実施する病院も増加し、右図の国立病院機構の利益率で示したとおり、年々低下している。公的病院や社会福祉法人の運営のあり方について、①経営改善、②地域連携、③収益に見合った人員管理、④適切な備品調達・設備投資、⑤目標・計画管理の検証などが求められており、各①～⑤の項目について調査研究を進めている。



アピールポイント

公が担う医療や社会福祉法人が行う供給体制の在り方については、地域ごとに人口動態、高齢化の状況、障害需要が異なり、地域の実情に応じてその変化は大きく異なると考えられる。各病院や社会福祉法人が有する医療資源・福祉資源の差異が課題となる中で、それぞれの機関のガバナンス体制の在り方について検討している。

応用分野

国立病院機構、県立、市立等の公立病院はもとより、行政から業務委託を受けた法人への財務の特徴とその有する機能との関係を調べるができる。